公益社団法人国際演劇協会(ITI/ ユネスコ)日本センターは、ユネ スコ傘下の国際組織である国際演 劇協会 ITI(International Theatre Institute) 加盟の公認団体です。ITI は世界平和と相互理解の促進を希求 するユネスコ憲章の精神に基き、演 劇による国際交流の増進を目的とし て 1948 に年創設され、現在約 90 の国と地域が加盟しています。

公益社団法人 国際演劇協会 (ITI/ ユネスコ) 日本センター Japanese Centre of International Theatre Institute / UNESCO



I.T.I.NEWS 2018.1.31. No.129

2018 - The Year of ITI



International Theatre Institute

興基 が謳われています。 発表された「文化芸術振 となるもの」 策定に向けての文化審議 れました(6月)。 化芸術基本法」 化芸術は、 会の「中間報告」では、「文 本計 画 世界平 文化の多様性 (第1期)」 であること が施行さ -和の礎 先頃

T I 70 周年を祝う

に向けてメッセージを発表することになって います。 アジア太平洋、 ダンス・デイ)」と定めています。今年は創 表する5名の演劇人、 立70周年を記念し、各地域(アフリカ、アラブ、 日本国内では、 アメリカ、 昨年、 舞踊家が選ばれて世 ヨーロッパ)

術振興基本法」(200 1 これまでの「文化芸 年制定)に代わる「文

「文化芸術基本法」

国際演劇協会 公益社団法人 (ITI/UNESCO)

劇の日

年に当たります。

においてITI

が設立されてから70

ITI本部では、

毎年3月27日を「

世

界演 4

同中間

2

18年は、

19

48年の第1回

明けましておめでとうございます。

29日を「国際舞踊の日(インターナショナル

(ワールド・シアター・デイ)」、



のもとユネスコ活動 て、 が制定された(平成27年)ことを受け に、近年 込まれました。 術に関する基本的な施策」 報告の「今後5年間に講ずべき文化芸 スコ活動を推進する」ことが、 皆さまご存じのとおり、 「文化活動を含めた国内外のユネ (国連教育科学文化機関) 「ユネスコ活動に関する法律 界の演劇舞踊人によって設立 専門団体の一つです。 された組織であり、 を構成する分野・領域ごとの の活性化を Ι の中に ユネスコ Ť

は

援など他の多くの分野でNG 医療・環境・教育・人道支

していることはよく知られています 少しでも貢献していけるように努めた で日本における取り組みを広く ける世界的なNGOネットワークの中 いと念じております (民間非政 弊センターも文化・芸術領域 世界に広がる困難な課題の解決に 府組織) が世界的に活 発信 にお

が、

0

ますようお願 どうか倍旧のご支援とご協力を賜 い申し上げます。

第9回

-ム氏 (ヨルダン/パレスチナ)

シリア

『さすらう馬』

とヨルダン/パレスチナ

『朝のライラック』

アラブの心を届けて

文化庁、 「紛争地域から生まれた演劇9」(主催 ITI日本センター)は、 アラ



のリーディング風景 ガンナーム・ガンナー ム作『朝のライラック』 撮影 石澤知絵子

紛争地域から生まれた演劇 ウダ(シリア)作『ハイル・ターイハ クによって紹介した。 演に先立ち10月6日と7日には、 の現況を伝えるものとして注目された。公 れも知られることの少なかったアラブ演劇 ルダン/パレスチナ)作『朝のライラック すらう馬)』とガンナーム・ガンナーム で特別講座「アラブ演劇の現在」 (ダーイシュ時代の死について)』で、 ムさんを招いて同劇場のアトリエイースト アドナーン・アルア リーディングとトー 12月14日からの アトリエウエストで ブ人作家の2作品 東京芸術劇場の ガンナー を実施し いず 4 日

も嬉しい。

介した作品が様々な形で展開をしているの 上演される(予定)など、当シリーズで紹 いたま芸術劇場の NINAGAWA STUDIO で

ディング公演は早々に完売、ジャーナリス 紹介する当シリーズも9回目を迎え、リー 日本で未紹介の海外戯曲を初訳 · 初演

> =イスマエル・サイディ)が今年6月にさ る。また、昨年紹介した戯曲『ジハード』(作 くなり、 介されるなど、認知度は静かに高まってい 会図書館の月報 問合せが入るようになり、 トや評論家も多く来場した。客層は年々厚 出版・テレビなどのメディアから (2018年1月号) で紹 戯曲集が国立国

報の責任者を務めている。 国連邦)のシャルジャ首長、 第7回アラブ演劇祭でUAE(アラブ首長 劇祭」とゆかりがある。『さすらう馬』 主催団体であるアラブ演劇協会で出版・広 賞しており、ガンナームさんは当演劇祭の 殿下の名を冠した「カースィミー賞」を受 今回紹介した作家は、 ともに「アラブ演 カースィミー

特別講座 シャルジャから 「アラブ演劇の現在」(10/6) 『朝のライラック(ダーイシュ 10 7

迎えての特別講座「アラ 作家、 時代の死について)』の は市村作知雄さん(フェ ブ演劇の現在」。1日目 ガンナームさんを

スティバル/トーキョー

す機会にもなった。市村さんはトークの終わりに ための演劇祭」たる当演劇祭について深く知るこ た。正則アラビア語で書かれた作品のみを紹介す 祭やシャルジャの文化政策などについて話を聞い 国際フェスティバルをすることで、 ディレクター)を聞き手に迎え、 いわば「アラブのアラブ人によるアラブ人の 同時に国際演劇祭の意義を見つめなお テレビなど アラブ演劇

> うと感慨深い。 イル・ターイハ』が日本に届く契機となったと思 は作品の質は見極めるが、検閲はしない。検閲を た。また、ガンナームさんからは この精神が強靭なドラマの育つ土壌を作り、『ハ しないことが開催地の条件」という説明があった。 で操作されているイメージが壊れていく」と語っ 「アラブ演劇祭

てガンナーム氏ご自身のことー 京都大学大学院人間・環境学研究科教授)を迎え 2日目は岡真理さん (現代アラブ文学研究者、 アルアウダ氏 (シリア)

> りたい。また、 細な報告は、今春3月発行予定の「国際演劇年鑑 成しているもの――について聞いた。この日の詳 2018」(今春3月発行予定)所収の報告に譲 品など、現在のガンナームさんの演劇活動を形 ガッサーン・カナファーニーとの出会いやその作 している。 闘争における非暴力についての考え方、 同誌では岡さんからの寄稿も予定

真帆さんには長時間にわたりすばらしい通訳をし の強い言葉を届けることができた。最後に、渡辺 劇文化と演劇祭の存在を知らせ、ガンナームさん たことで、幅広い層の来場者にアラブの豊かな演 ていただき、企画段階から多くの示唆をいただい たことを特筆したい。 フェスティバル/トーキョーとの共催が実現し

|紛争地域から生まれた演劇9](12/14 ■『ハイル・ターイハ(さすらう馬)』 17

用いられている。今回は長大な戯曲を1時間に縮 従えて語るように書かれており、3人称過去形が ら成長し、 双方に30代を思わせる同世代の俳優を起用した。 られた娘が因習と現代的生活のはざまで揺れなが に1人称現在形で語らせ、ハイル役とターイハ役 (詩の一部はクルド語) は一人の旅芸人が楽団を ルドの間に生まれ、「ハイル(馬の意)」と名付け ベドウィンの母ターイハ(さすらいの意)とク 2008年に出版された。 アラビア語原文 複雑な配役を緻密に整理して、複数の出演者 女性として自立する姿を描いた本作

までの50年を生きた2世 2008年現在にいたる 代の女たちの生きざまが ありありと伝わる上演と

上演後のトークでは作

創作における作家の挑戦も浮き彫りになった。 意味、音楽など多岐にわたる話を聞くことができ、 品の背景、 戯曲の形態、 本作におけるクルド語の

の劇評を掲載する予定。 「年鑑」には高橋宏幸さんによる本作について

<u>ر</u> ■『朝のライラック(ダーイシュ時代の死につい

によりUAEで上演される予定だ。 初演となった。2018年3月、作家自身の演出 書かれた本作は、今回のリーディング公演が世界 心中したシリアの夫婦のニュースに衝撃を受けて 自死は禁じられている)。結婚ジハードがもとで ちの未来のために心中する……(イスラームでは に、教え子たちは戦闘員となり、夫婦は子どもた 婚ジハード」を迫られる。そして学校は軍事拠点 ムに改宗して私と結婚しなさい」といわゆる「結 な危険に陥らないよう、私の指導のもとイスラー 回してモスクの扉の前に捨てる。ライラク、そん 二晩自分で楽しんだあと、手下たちにやり、 としている。彼はライラクを手に入れたら一晩か 夫婦はある日、 の町に住む若い夫婦、イスラーム教徒のドゥハー 町を舞台に展開する。中央の目が行き届かないこ という。本作は同組織の支配下にある架空の田舎 ラビア語メディアはこの呼称を用いることが多い S)」の蔑称だ。

ISを支持しないアラブ人やア イラクを手に入れるため、ドゥハーを処刑しよう 「ライラック」に因む)は芸術を若者に教えていた。 (朝の意)とキリスト教徒のライラク(花の名前 副題にある「ダーイシュ」とは「イスラーム国 町の長老から「ジハード戦士がラ 使い

教徒の恋愛・結婚などについて話を聞き、作品へ 「への信仰、同性愛、イスラーム教徒とキリスト 上演後のトークでは、イスラームの死生観、天 事務局・後藤絢子)

> 日程:2017年12月14日(木)~17 紛争地域から生まれた演劇り H

日

会場:東京芸術劇場アトリエウエスト ■『ハイル・ターイハ(さすらう馬)』

上演日時:12月14日 (木) 19時 12月15日 (金) 19時

作=アドナーン・アルアウダ

翻訳=中山豊子

翻訳監修=アーヤ・ 演出 = 坂田ゆかり J l ル

出演:松山愛佳(文学座)、

稲継美保、

林

周

風

煉ダンス)

歌:白崎映美(東北6県ろ~るショ

※終演後には出演者全員(白崎さん、 作編曲・演奏:大平 大平さんを

ルさん、坂田ゆかりさんによるトークを行った。 含む)を交えて、中山豊子さん、アーヤ・ハリー

<u>_</u> ■『朝のライラック(ダーイシュ時代の死につい

上演日時:

 \pm

作 Ghannam、ヨルダン/パレスチナ) ガンナーム・ 1212 月月 1716 日日 目 14 19 ンナー 時時 \mathcal{L} (Ghannam

訳:渡辺真帆

翻訳監修:ナーヘド・アルメリ

演出:真鍋卓嗣(劇団俳優座)

出演:占部房子、竪山隼太(さいたまネクスト・ シアター)、内田健司(さいたまネクスト・シア

ター)、須藤沙耶(Pカンパニー)、 演出助手:中村圭吾(劇団俳優座) ロダクション・エース)、石川修平 髙山春夫(プ (劇団俳優座)

■特別講座「アラブ演劇の現在 ※終演後に渡辺真帆さん、ナーヘド・アルメリさ (16日のみ)、眞鍋卓嗣さんによるトーク

スチナ)/劇作家・演出家・アラブ演劇協会 講師:ガンナーム・ガンナーム (ヨルダン パレ

会場:東京芸術劇場アトリエイースト10月6日(金)~7日(土)

「アラブ世界の演劇フェスティバル」

①10月6日(金)18時半~21時

聞き手:市村作知雄(フェスティバル

②10月7日(土) キョー17 「アラブ世界の中の演劇と私 聞き手:岡真理(現代アラブ文学研究者、 ディレクター 14時~16時半

大学大学院人間・環境学研究科教授

ター

主催 国際演劇年鑑2018」 公益社団 法人国際演劇協会日本セ 特集企

共催 東京芸術劇場(公益財 団法人 東京都歴 史

企画制作 フェスティバル/トーキョー 公益社団法人 国際演劇協会日本セン (特別講座のみ

文化財団

トー 新進芸術家育成事業 文化庁委託事業 平成29年次代の文化を創造する

I 国際本部副会長 季 玉 中 国 の伝統劇 菛

本語訳が『中国の伝統劇入門/季国平評論集』 会副主席を兼ねる季国平氏の演劇評論集の日 冒頭で語られるのが「戯曲」という言葉。日本センター理事の菱沼彬湿氏。「写真=として昨年末刊行された。訳はIT 副会長、 の演劇評論家でITI国際演劇協会本 中国センター会長、 中国戯劇家協

の念を持つ読者も多かろう。 す言葉として使われていると知らされて意外 ているが、中国では全国各地の伝統劇を指 本では主に演劇の台本という意味で用いら 日本でも多くの

に京劇は戯曲の一つであり、京劇と呼んでほ い抵抗を示す。歌舞伎が Kabukiであるよう オペラ」などと訳されていることに著者は強 含まれる。京劇を外国人に分かり易く「北京 などはすべてこの戯曲と呼ばれる舞台芸術に 愛好家を持つ京劇、 いと日本の読者に語りかけている。 起劇、 Ш 劇

にも安定を見せているところが心強い。 持を受けて伝統の継承と発展に努め、 載だ。それぞれの戯曲芸術が根強い観客の支 報告」となる面白さを持ち、トピックスが満 その豊富な観劇体験を元に現場からの 国際舞台への進出にも尽力してきた。本書は 制作現場に寄り添い、ITIの活動を通して 種といわれるが、 今も生動を続けている。その数は一口に3百 れる戯曲は都市化、現代化の風を受けながら中国各地でその土地の言葉と旋律で演じら 著者は公式の肩書きを持ちながら各地の 数え切れないというのが実 「動態

現を得意技としていることを見せ、 観客を驚かせながら中国戯曲が独白と心理表 『マクベス』を脚色して 現代川劇

本語訳刊行 菱沼彬 晁訳

音域が聴かせどころという。 命であることを教えてくれる。 力が問われる試練の舞台。悲愴美に満ちた高 四 [川省) 『紅梅記』 俳優にとっては歌唱 では肉声が舞台の その

専門用語、 二の創作 を演出家、 著者は演劇になぞらえて自らを劇作家、 で読みやすさの工夫も凝らしたと訳者は語る。 宝だ。本書は専門家だけでなく初学者、 見できるだろう。本書のために書き下ろした の演劇愛好家を対象とし、注釈を必要とする 目で分かる最新戯曲地図100劇種」も重 演劇を考えるヒントにもなるだろう。付録「一 て見たい、聴いてみたい地方劇がいくつも発 「梅蘭芳・李漁・ブレヒト論」は世界の現代 第4章の「地方劇が面白い」を読むと、 時代背景などを本文中に取りこん として訳者との共同作業に応じた 読者を観客、訳業を演出家の

F AX03.3293.8349 成書房発行 A 5 判 2 6 (電話03・3293・8348 定 価 2 8 0 0 円



きました。 かった話を聞いたり、映像を観たりして、「立体的に」各国の舞台芸術の面白さを掘り下げていただ 師はそれぞれのカントリーレポートの執筆者である外岡尚美さんと篠崎直也さん。年鑑に書ききれな 成29年度から多彩な筆者たちに会いに行こう!というプロジェクト「ワールド・レポート・シリーズ」 国際演劇協会日本センター発行の「国際演劇年鑑」はオンラインでも読めるようになりました。 両日ともご来場くださった会員の絹川友梨さんにレポートをお願いしました。 一年目は、 創刊当初から最も多く紹介されてきたアメリカとロシアを取り上げました。講 (事務局)

「国際演劇年鑑」執筆者に会いに行こう!

「ワールド・レポートシリーズ」体験レポート

変に刺激を受けた。
ではなく「たまたま予定が空いていわけではなく「たまたま予定が空いていかした。実は両演劇に特に興味があったルポート「アメリカ」と「ロシア」に参レポート「アメリカ」と「ロシア」に参

「分断可視化」のアメリカ演劇

> さ居を観たかのような満足感があった。 芝居を観たかのような満足感があった。 とる語りはまるで朗読劇のようで、数本のおよる語りはまるで朗読劇のようで、数本のおよる語りはまるで明読劇のようである。映像ので紹介された演劇作品の数々(「Hamilton」、「Father Comes Home From The Wars」など)は、彼らの代弁者だ。外岡先生の抑えた声による語りはまるで朗読劇のようで、数本のおき居を観たかのような満足感があった。

ロシアは演劇祭が年に630回

でに大スクリーン前に着席している篠崎先生い勉強不足の自分が楽しめるのだろうか。す催された。ロシアに関する知識がほとんどな12月には「変わりゆくロシア演劇界」が開

ただ急激なハイテク化により、最新、が溢れるロシアでは、演劇界にも大きな変化が起こっている。俳優をモデルのようにメディアこっている。俳優をモデルのようにメディアに登場させたり、デザイン性の高い宣伝をしたりという戦略がなされ、演出家には世代交たりという。

ア演劇のカラフルな様子が見てとれた。数々はカッコイイものばかりで、現代のロシような作品も登場。見せていただいた映像のが積極的に用いられ、舞台セットがメインのが積極的に用いられ、舞台セットがメインの大掛かりな仕掛けやダイナミックな表現手法とは全く異なる斬新な演出であった。さらにとめ」は、一般的に思い浮かべる「かもめ」映像で見せていただいたチェーホフ作「か

情報学府博士課程後期)

(インプロワークス/東京大学大学院学際今後もこのレポート・シリーズに期待したい。
劇人でも十分に興味のもてるものだと思う。
発的なものであった。その国に興味のない演 だ立体的に実感できるアクチュアルかつ触 さて、2つのレクチャーは、海外の演劇事

こばやし 小林 あやな礼奈 NeSTA 活動報告 (NeSTA メンバー)

劇場・ NeSTA 通り、 を迎えました(今回より主催はITI日本センターを含む5団 による実行委員会形式となっています)。前々号でもご報告した (ネスタ) (Next-generation STAGE Alliance)も活動2年

2013年より始まった「高校生劇評グランプリ」は、 同グランプリの入賞者有志により発足したプロジェクト、 協賛各社・団体のご協力のもと、 今年度第4 口

多くの さん 参加した立場としてレポートをお願いしました。 画・制作を担いました。今号では NeSTA のメンバー、 評をめぐる3つのプログラム」を開催しITI日本センターが企 度は新たな展開として東京芸術劇場が 目となり、 (大学3年生) 稽古場リポートなどで活動の幅を広げています。 に NeSTA の活動近況と同プログラムに全 「高校生・学生のための劇

今年

(事務)

口

「高校生劇評グランプリ」優秀賞受賞者が集って

応援するために発足しました。サイトでの 者を中心に、2016年、 | NeSTA | は高校生劇評グランプリ受賞 次世代の観劇を す。 世界は学生にとっ

ても刺激的

な場で

ています。 ハインタビューなどのプログラムを展開 演劇人インタビューではこれまでに東京

劇評掲載を中心に、稽古場レポート、演劇

謝珠栄さんにインタビューを行いました。 向けた応援のメッセージは熱意に溢れ、 これからの演劇界について、また次世代へ 館長の岡室美奈子先生、 文学学術院教授、 ファンデーション主宰の演出家、 云術劇場副館長の高萩宏さん、 坪内博士記念演劇博物館 TSミュージカル 、早稲田上 振付家の 大学 聞

書く・語り合う・考える

-3つのプログラム展開中

観劇を応援 り手や研究者と 盛んな演劇トー して見る演劇の なか聞けない作 クも白熱。 き手の学生との なか

事を目指しています。 通じて、 年座などさまざまな演劇のレポートを ポートではプロダクションや劇団 います。 ではのフレッシュな視点でお届けして 依頼を受けて稽古場の様子を学生なら 観劇を楽しんでもらえるような記 状 同世代に演劇をより身近に感 東宝、こまつ座、 活動 の中心である稽 文学座、 古場 「から

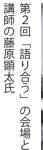
リに向けて観劇カフェや選考、授賞式 の設営などにも携わり、後輩たちへの 第3回、 第4回高校生劇評グランプ

> く」「語り合う」「考える」をそれぞれテ ンバーに出会えることを期待しています。 応援も行っています。 言評をめぐる3つのプログラム(は、 多彩なプログラムが盛りこまれま 第 4 回で、 新 V

ド三世』 をいただきました。 ところを汲み取りながら理知的なコメント 流れで進みました。それぞれの劇評の良 コメントの後、 参加者の劇評の講評では参加者同士による ギリスでの さんは以前イギリスに留学されており、 プルカレーテ)を事前に観劇し、 いお話に思わず聞き入ってしまいまし いて参加するというプログラム。『リチャ 『リチャード三世』(演出=シルヴィ ▽第1回「書く」(10月28 演劇界における劇評の必要性など力強 の演出助手を務めた講師の谷賢 劇評文化や作り手から見た劇 谷さんが講評する、 日 劇評を書 という

·第 2 回 田秀樹さんの『One Green Bottle』 「語り合う」 $\widehat{11}$ 月 11 日 を

講師の谷賢一氏第1回「書く」の会場と



観劇し は真っ白な模造紙とペン、そしてぬいぐるみが置 かが分かる、 わると前のグループではどのような意見が出たの 適宜模造紙に好きなことやメモを書いて、 の濃い時間を過ごしました。それぞれの机の上に に気になったことを改めて考え直したり、 ブルに分かれて、 ぬいぐるみを持っている人が発言できます。 7 作品 という仕組みです。 色々な意見に触れたり、 につい 時間ごとにメンバ て語り合いまし また観劇中 ーを変え 席が変 と密度 3つの

まな解釈を聞くことができました。最初は緊張しの際に流れる音楽、台詞の意味について、さまざろいろな観点が出ました。特にラストシーンやそ派生して舞台装置や役者の演技についてなど、い派生して舞台装置や役者の演技についてなど、いいら全体に「タイトルにもなっている 'One Greenら全体に「タイトルにもなっている 'One Greenら全体に「タイトル」

れました。りなくなるほど白熱した観劇トークが繰り広げらていた参加者も徐々に打ち解け、最後は時間が足

▽第3回「考える」(1月8日

だきました。 中で劇評の立ち位置が変わりつつある、 田さんの芸能に対する想いには胸を打たれまし リストになったのか?などについてお話していた き手にワンダーランド代表の北嶋孝さんを迎え 講師に文化ジャー た問題についてもお話いただきました。 またインターネットやSNSなどが普及する 劇評とは何か? 特に阪神淡路大震災を経験され ナリストの内田洋一さん、 どのようにしてジャー という切 た内 ナ 聞

ました。 (早稲田大学3年生)れながらも、素晴らしい時間を過ごすことができこと、そして劇評を書くことの魅力と難しさに触るつのプログラムを通じて、改めて演劇を観る



内田洋一氏 (左)と北嶋孝氏 (右)第3回「考える」の会場と講師の

■主 催■ 東京芸術劇場

(公益財団法人東京都歴史文化財団) ■共 催■ 章校生劇製がランプリタ伝承日本

高校生劇評グランプリ実行委員会 ■企画・制作■

公益社団法人ITI国際演劇協会 日本センター(ITI/UNESCO)



角^{かくもと}

敦(舞台演

出

家

IAPAR (International Association for Performing Arts and Research) International Theatre Festival 2017

インド・プネー市の国際演劇祭に参加して

を進めたい。 告をする形で筆 受けここに報告させていただく 2017年の報 こととなった。 ていた矢先、 の動向を示す好例であると思っ さて、 マラーティ語文化都市 プネー (Pune) とい 事務局から依頼を 以下、 主に昨

第九の マラーティ 辺はインド公用語の一つである かるかもしれない。インド人口 方はプーナ (Poona) と言えばわ 市をボンベイ市と記憶している ない方も多いだろう。ムンバイ てもそんな地名を聞いたことが マハーラーシュトラの州都であ マハーラーシュトラ州や周 都市。 語の地域 ムンバイも含む プネー つ

> る。 ラーティ語演劇も重要な な文化の中心都市となり、 は古くからマラーティ語を用いたさまざま 部として含まれ その中には

ない 劇団 Researchの略称でプネーを拠点とする演 Association for Performing Arts and 年も継続した。 そんな町で2016年に始まり、 IAPAR International Theatre Festival のは、 体である。 いわゆる劇団としての作品製作 敢えて劇団という語を使わ IAPAR とは、 Internationa 2 0 1 7 は

続して招聘され現地を訪

れてき 一年と連

この演劇祭がITIの最近

際演劇祭に、

昨年·一昨

市にて毎年11月に開催され

る国

私事ながら、

インドのプネー

取り扱うことになる。 たインド・センターが2014年 玉としてこの演劇祭が始まる。 ネーに移転し IAPAR が実質的に全事務を でもあることから、 者 Vidyanidhee Vanarase が同 デリーで縮小気味だっ そして、 校 新体制の 0) 11 卒業生 月、 É

ばしば作品発表やワークショップを実際 初 な主賓 (Festival Chief Guest) を招待する。 に行うアーティストたちの他に名誉職 回20 南アジアの演劇祭のスタイル 16年は、 NSDの元学長であ では、 L

ITI各国センターとの連携視野に Vanarase でもある Ram Vidyanidhee 恩

こに この わる実践を続けているからである。 典アーカイヴなど、より総合的に演劇に関 ネットワーキング、 成学科との連携、 技術の応用、 だけでなく、教育や農村啓発事業への 団 ITIと繋がりがある。 「体がなぜ国際演劇祭を始めたか。 批評家の育成、 各国の演劇事情 マラーティ語 大学の俳優育 の調 演劇の古 そして 演劇 査と そ

が 演劇学校 National School of Drama まだ首都デリーに拠点があると思われるか ともするとITIのインド・センタ 中 ň 心となり運営していた。IAPAR の ない。 かにかつてはデリー (NSD) 0) ノーは 創始 国立

> ある。 ITIとの繋がりがうかがわれる。 された。 彼の詩の翻訳に関するシンポジウムも開催 長である Tobias Biancone 氏が主賓となり、 インド・センターと IAPAR を繋げたの Gopal Bajaj が主賓となった。 2017年は、 この二人が順に招待されたことに ITI本部の事務総 彼がITI

カ 冥 26作品、 16ワークショップ

22

され けワークショップ メイン作品、 2 力国 17年 0) アー は 11 11の小規模作品 ティ 月 (うち一つは児童向 (1日から12日まで開 ストが参加 11 の 一 Ų 15 般向

クショップが行われた。
5のプネー大学舞台藝術学科への出張ワー

マラーティ語をヒンディ語翻訳

ド。上演後に観客とアーティストの討論が を呼び起こしていた。 品の一つで、これをヒンディ語翻訳でやる という20世紀マラーティ語演劇の最重要作 たが、その上演作が「Ghasiram Kotwal」 はNSDの Repertory Company も参加し から集められ言語もさまざまである。 されたマラーティ語のものだけでなく各地 企画される。 のはプネーでは異例であり観客の間 メインの5作品は海外から残りが インド作品は、 プネーで製作 品に論議 今回 イン

多彩なのは使用言語だけでない。伝統舞 の現在を知るよいメニューである。海外作 の現在を知るよいメニューである。海外作 の現在を知るよいメニューである。海外作 の現在を知るよいメニューである。海外作 の現在を知るよいメニューである。海外作 の現在を知るよいメニューである。海外作

参加となった。と新作の構想が立ち上がりそして今回の再と新作の構想が立ち上がりそして今回の再ていてプネー滞在中にスリランカの演出家作だが、彼女は前年にも別の作品で参加し

韓国センター推薦の「Hole」上演

進めている。

また韓国の作品「Hole」は前年にワークショップを行なったITI韓国センターの金昌華が監修・紹介したものである。この金昌華が監修・紹介したものである。このないら将来年次で滞在製作をする計画をしながら将来年次で滞在製作をする計画を進めている。

位置づけられている。

小規模作品は劇場ロビーに設えた舞台で 小規模作品は劇場ロビーに設えた舞台で をの学生演劇祭で発表されたバングラデ をの学生演劇祭で発表されたバングラデ をの学生演劇祭で発表し前年からの成長を 生が今回は小品を発表し前年からの成長を 生が今回は小品を発表し前年からの成長を は完成版となり今回のメイン作品のITI世界大 は完成版となり今回のメイン作品の

はそんな夢を実現すべくまずは自分のとこ くれないものか、 えた総合的な演劇祭をITIの各国セン する演劇サークルなどの併設企画がある。 ションがプネー内の大学・専門学校が参加 ティ語戯曲のリーディング・コンペティ の若い批評家が参加する討論や、 ろで動いているようである。 ターが開催しそれ繋いだネットワークをつ Critics ' Workshop と銘打って世界8ヵ国 インド・センターと共催で IATC Young このほかに、 以上のような単なる作品の上演機会を超 国際演劇評論家協会 (IATC) インド・センターとして マラー

http://www.iapar.org/festival-2018 から。まっていて締め切りは3月27日。詳細は、次回についてすでに招聘作品の公募が始

ディア・デッラルテの現代演出までさまざま。 グまで手法もさまざま、 多彩なのは使用言語だけでない。 題材もインド神話によるものや現代の社会問題を扱ったもの、 伝統舞踊を用いたものからリアリズムさらにはディバイジン インド演劇の現在を知るよいメニューである。 コンメ

英連邦部会報告

Romania からわかるように元はローマ

の支配下にあった、

つまりラテン系。

そ

ロシア・ソヴィエトとの関わりが

黄色系の石造りの街並みで、

すなわ

で、マリア・テレジア・

イエロ

ーという

シビウの

街はハプスブルグ帝

玉

フィジカル系演目

「 1 二 二 二 二

方ほどの 0) 東

異言語文化の混在

ルーマニア・シビウ演劇祭

ドイツ系。けれど、

国名のルーマニア

優秀作品に選ばれた石井あつこ 祭&英国演劇事情」についての 日には同じく無何有で翻訳講座 お話を聞く会を開催し、 なもとごろう氏に を三輪えり花さんの演出 『ドロシーとオズの魔法 「シビウ演劇

の活動は月1回の例会のほ 7月30日に新宿・無何有で、み Ť | 11 月 12



みなもとごろう氏がシビウ演劇

英国の演劇事情について報告

翻訳講座で優秀作品に選ばれた 『ドロシーとオズの魔法使い』

ど印象に残った作品について語り、 ナーランドスケイプ』『ミネッティ』 しながら、『メフィストフェレス』『イン のために配布したビジュアル資料を紹 た上で、フェスティバル委員会がプレス 幾つかの大変興味深い前提条件を指摘 に演劇祭の持つ問題点も指摘するなど、 示唆に富むものでした。 さら

をプレス写真から読み取って欲しいと 接写角度のバランスなど、 体・作品全体を表現出来るか、 強調したのは、 台を紹介してくれました。 帰路に英国に立ち寄りロンドンで観た舞 Kite Runner』『Anatomy of Suicide』等々、 ロンドンのプレス写真 どれだけのクローズアップで舞台全 『The Ferryman』『インク』『The 舞台写真の質の高さで その際、 その巧みさ 引き続き、 遠近法や まず

祭の特徴を理解することができない。

この特徴故に、

上演演目

共

ている。

これを知らないとシビウの演劇

はフィジカルなものが占めている」等々、

さなエリアに多くの異言語文化が混在し 深くなり、つまりスラヴ系も入って、

> その後の懇親会ではシビウ演劇祭の 活発に質疑応答が行われました。 七字英輔さんにも加わっていただ 作品を紹介してくれました。 卓

第 7 石井あつこさん翻訳講座優秀作 口 戱 曲 研究&懇親会」

アドバイスで成り立っています。 シー・ホッチナー ライン講座は三輪えり花をメイン講師と 演出 = 三輪えり花) ズの魔法使い』(作=スティーブ&ケイ 翻訳作品発表会として『ドロシーとオ 英連邦部会のシアター翻訳・ 『ドロシーとオズの魔法使い』 英連邦部会のメンバーのサポ 無何有で翻訳講座優秀修了者 /翻訳=石井あつこ を取り上げました。 通訳オン 11 月 12

られて大人達も立ったり座ったり両手を さな子供達7~8人の反応が極めてよく 上げたりと童心に帰っている様子は嬉し こちらも楽しくなりました。 積極的に参加してくれたので、 い驚きでした。 次回の この作品は観客参加型芝居ですが、 「戯曲研究&懇親会」 子供達に釣 は 2 月 見ている 25

発表会を予定しています。 翻訳講座優秀修了者翻訳作品第2

副会長・吉岩正晴

庁では、

野から交流使が選ばれますが、2017年

庭山

由

から、

日本舞踊

は舞台芸術分野

(ドイツ演劇・制作・翻訳)

楽師

宝

生

和 英

藤間蘭黄氏、

年から続けています。この枠組では、ポッ

る「文化交流使」という枠組を、

プカルチャー、美術、

建築、さまざまな分

⇒せかい

2017年、

術劇場招聘 イス・ロ

「育恵作『SOETSU―! の俳優がソウルでリーディング上演 -韓くにの白き太陽

蓮沼執太氏、そし川拓也氏、音楽家

うん氏、

ダンサー

演出家村

ステルダム/トネールグループ)、日本舞 ーザンヌ/ Vidy 劇場)、東京芸 演劇祭招聘『ウェルテル!』(ス 『オセロー』(オランダ・アム 筆者庭山は、 ふじのくに の熱い交流を目のあたりにしてきました。こ 長田氏の派遣先へ視察に赴き、寒いソウルで こにそのレポートを記します。 て劇作家長田育恵氏が選ばれました。筆者は、

舞台で行き交う日本語・韓国

となりました。 でした。上演会場は明洞駅より歩いてすぐの ディングフェスティバルの一環としての上演 南山アートセンターで、 月21日~23日)・リーディング上演(3月24日) SOETSU―韓くにの白き太陽―』 動 内容はソウルでの、 10日間に渡るリー 長 の稽古 田 氏 (執筆 3

聘や字幕翻訳に携わり、大きな手応えを得

ミュンヘン/バイエルン州立歌劇場)の招

台芸術振興会招聘オペラ『魔笛』(ドイツ・

いわゆる「引越公演」ですが、日本の文化 ました。これらは海外の劇場が来日する、

劇場ではなく個人を海外へ派遣す

氏、石村みか氏、そして客演で峰崎亮介氏が、 宰するてがみ座から、岸野健太氏、 韓国語セリフ箇所では日本 語字幕が投影さ で演じ、日本語セリフ箇所では韓国語字幕が、 が日本語で、韓国人役は韓国人俳優が韓国語 と韓国人なのですが、日本人役は日本人俳優 物は日本人(主役はタイトルロール柳宗悦) ムプレイ主宰キム・ジェヨプ氏が担当しまし ゼ 21座付俳優5名が務め、演出は劇団ドリー れました。この日本側出演者は、長田氏の主 また韓国側出演者は劇団ドリームプレイテー この作品の舞台は主に現ソウルで、 福田温子



劇団ドリー

劇作家演出家キム氏は世宗大学映画芸術学

年、サバティカル滞在。筆者は同時期にべい科教授としてベルリン芸術大学に201日 感銘を覚え、今回の、協働、に至ったのでした。 だったにも拘らずキム氏は長田氏の世界 共に劇団民藝を観劇、そして全編日本語上演 京に。キム氏はツアーの合間を縫って筆者と アハウス『検閲―彼らの言葉―』) の劇団ドリームプレイの来日公演(上野スト 藝にて初演。時を同じくして、キム氏は自身 『SOETSU―韓くにの白き太陽―』 上演したり、 ろば』、中津留章仁『背水の孤島』 シアターにてリーディング上演されていたり 表作『アリバイ年代記』が世田谷パブリック キム氏の日本との繋がりは既に強く、氏の代 め、ベルリンで知り合うこととなりましたが、 リンシャウビューネ劇場に所属していたた 日本作品を演出、具体的には蓬莱竜太『まほ (主催・日韓演劇交流センター)、ソウルにて サバティカル滞在。筆者は同時期にベル していました。2016年末、 は劇団民 のため東 を韓国語

言葉の壁を乗り越えて

と地 中央博物館を視察、現地にいてこそできるリ時)に展示した白磁壺が移管されている国立 柳宗悦が収集し景福宮内朝鮮民俗美術館(当 語の舞台となる朝鮮時代の王宮・景福宮や、 層的な拡張を見せてゆきました。 溝がひとつひとつ埋められながら、 イ氏、字幕通訳石川樹里氏も加わり、 われました。 4 稽古は大学路にある劇場のスタジオにて行 元テレビ局を迎え、 日目に迎えた本番には150名強の観客 ねました。ソウルでの稽古初日か 稽古場では、 翻訳通訳イ・ホン 併せて、 戯曲は重 言語の 物

ションに加わるシーンも。 部を抜粋しての短縮版だったた演されました。上演は戯曲の一 演もトークも大いに盛り上 劇場芸術監督が自らディスカッ な質疑が飛び交い、 キム氏を迎えてアフター 終演後は劇作家長田氏と演出家 が来場者に配布され 時に学術的な、 韓国語訳全編を掲載した冊 幕となりました。 客席にいた 時に政治的 ました。 トー

豊島区が東アジア文化 都市の国内候補都市に

りの演劇人として、言語の違い 築かれる一年となります。 後東京では東京芸術祭をはじ の2018年はその大きな礎が されることとなるでしょう。 年東アジア文化都市国内候補都 来年に迫っています。 パラリンピック開催はもう、 市も豊島区に決定しました。 2 0 2 0 さまざまな文化交流が展開 年オリンピッ 2 0 1 9 ひと ح 今 消 (2017年8月~2018年1月)順不同・敬称略

文化功労者

中村吉右衛門

佐々木英子(アプライドシアター 角本敦 (d'UOMO ex machina 小杉世(大阪大学大学院言語文化研 石井あつこ(ラボ・パーティ/翻訳) 石川麻衣 個人会員 究所/応用演劇・ドラマ教育 究科/ポストコロニアル文学・ 劇・ダンス) ンド演劇・翻訳・役者) セアニアの演劇と芸術 (フリーランス/アイルラ 入会」(所属/ジャンル) 演 演研 オ

渡辺真帆(フリー 個人会員 語 通訳·翻訳 /アラビア語、

英

劇教育)

花柳寿美 長谷川紫穂

薄井憲二 【ご逝去】 【叙勲・功労者】 2 0 1 7 车 12 月 24 月

第72回文化庁芸術祭賞 第24回読売演劇大賞最優秀作品賞 同 同 東宝株式会社 /株式会社 WOWOW 日本放送協会 テレビドラマ部門大賞・優秀賞 優秀スタッフ賞 芸術栄誉賞 九代目 松本 幸四郎 吉井澄雄 沢田祐二 演劇部門大

(© 国際演劇協会日本センター 2018)

こそが有機的な相互交流を育む

ではないかと考えています。

ディング公演。

このような交流

第59回毎日芸術賞

千田是也賞

野

ラジオ部門優秀賞

日本放送協会

テレビ・ドキュメンタリー

部

日本放送協会

楽しみながら、

文化交流に寄与

できたらと志を新たにさせられ

素晴らしいソウルでのリー

を避けて通ることなく、

むしろ

第 129 号 2018 年 1 月 31 日発行 行 公益社団法人国際演劇協会日本 センター永井多恵子

発行人 編集人 曽田修司 吉岩正晴 菱沼彬晁 東京都渋谷区 所 〒 151-0051 千駄ヶ谷 4-18-1 国立能楽堂内

Tel03-3478-2189 Fax03-3478-7218 Email:mail@iti-j.org URL http://iti-japan.or.jp

(イン) トワークの中での試みが は、パフォーミング・アーツの に与えてくれています。(曽田) ▲中国の銀川で第1 回「国際伝統劇フォーラム」が開 回「国際伝統劇フォーラム」が開 がれ、ビアンコーネITI事務総 かれ、ビアンコーネITI事務総 かれ、ビアンコーネーの銀川で第1 として定着し、演劇を通して世界を がれ、ビアンコーネーのようが開 がれ、ビアンコーネーの中での試みが をいいます。毎回の は、日本で「紛争地域の演 をいいます。毎回の は、アンコーネーでの試みが がれ、ビアンコーネーでの試みが じずにはいら としている」と危機感を訴え、各ルーツが歴史の舞台から消えよう 本センターの経済基盤の の眼差しを感じながら、国際会議参加各国から日本に注がれる期待 国センターの連携を求めました。 つ開くのもままならないわが日眼差しを感じながら、国際会議 2 て I T I ダンとの 界同 試的事 争のみネ業と地演がッと 争のみネ業

